

特集1

区民生活と行政の対応

緑区民の生活と地域社会

緑区A調査結果を中心に

緑区民生活調査 作業班

1——緑区のあらましと区民の特性

1> 緑区のあらまし

緑区の前身である神奈川県都筑郡は都田, 中里, 新治, 田奈, 山内の5カ村をもって構成され, 昭和14年に横浜市と合併して港北区に編入されている。翌15年には港北区川和出張所が設置され, 22年には横浜・川和間に初めての市営バスが開通した。この地域は, 広大な多摩丘陵の一部で, その後もまったく文化の恩恵から忘れ去られた農村地帯として残存し, “横浜のチベット” とすら呼ばれていた。農家の多くは米, 麦, 野菜を生産して生計をたてており, 人口の流動もきわめて少なかった。中心部へは国鉄横浜線, 県道上麻生線を使うしかなく, 旧大山街道は, 国道であるにもかかわらず, 道路の両側に草が繁り, 自動車の行き違いもできないような砂利道で, 車は一日に数えるほどしか通らなかったといわれる。

ところが, 昭和28年東急の城西南地区の開発計画が発表され, 同社が「理想的な計画都市」のマスタープランの図面と説明文を横浜市にもちこんだのは昭和31年。この頃は, 首都圏ではスプロール現象がようやく大都市周辺部をむしばみ始めた頃であった。しかし, この計画で東急が買収しようという恩田・荏田地区や長津田周辺は, 地元の不動産業者でさえ東急の開発構想を信ずることができず, 投機の対象外に考えていたぐらいであった。一方, 横浜線沿線では, 31年に市営バス路線が中山駅を中心に整備され, 34・35年頃から谷津田原・十日市場両市営住宅も完成して人口が増え, 地域的な変化をきざし始めた。

東急のこの地区への最初の進出は, 恩田第一・荏田第一の区画整理事業。36年に横浜市長の認可を得て組合が設立され, 事業に着手している。38年10月, 東急では鉄道建設の着工と同時に, この計画を一般にPRするため, 大井町線を田園都市

目次

- 1——緑区のあらましと区民の特性
- 2——区民の定住性と流動性
- 3——生活感と社会観
- 4——居住感と住民の要求
- 5——地域社会と住民組織

線、城西南都市計画を多摩田園都市建設計画という新名称に変更した。その後、土地区画整理組合は続々と誕生して事業が進められた。この傾向は、41年4月の東急田園都市線の開通によって拍車がかげられ、多摩田園都市への入居者が急速に増え始めた。一民間デベロッパーによる区画整理事業と宅地造成工事は着々と進み、丘と緑がけずられ、谷を埋めて旧農村地帯はまたたくまに変ぼうしてしまった。

横浜市役所では、人口の定着につれて学校の拡充や新設、清掃処理施設の増強や水道拡張工事、河川改修、区役所や消防署の整備などの公共投資を余儀なくされ、膨大な経費が必要となってきた。生活関連施設が不十分なままに、当時横浜でもっとも人口増加の激しかった多摩田園都市に入居した人々は、表一1にみられるように切実な要求を市や区に訴えている。これらは住民から直接市長宛にだされた生活環境の整備を求める手紙であるが、大規模宅地開発に伴う開発のあと始末が、役所と住民、つまり自治体に押しつけられてきたのである。しかしながら、従来の役所の執行態勢では、このように一地域に集中した莫大な行政需要には、とうてい市の施策も追いつかないというのが実情であった。

そうした背景のもとに、横浜市は44年4月に緑区開設準備室を設け、同年10月には、市内の他の人口急増区〈南・戸塚・保土ヶ谷〉とともに、港北区から分区して新しく緑区を誕生させた。分区時の緑区人口数は123,262人、世帯数は32,362世帯であった。47年3月には、中山駅前に総合庁舎が竣工し、同年4月、緑区役所は川和から新庁舎に移って業務を開始している。

区民の年齢構成は、45年国勢調査結果によれば、20代・30代とも22%ずつで、若い世代が主力。しかもなお、若年層の流入が多く、小・中学生の数も年を追って増え続け、48年5月には区の人口が

20万人を越えている。51年2月1日現在で238,542人〈世帯数は約6万5千〉、市内では戸塚・港北・鶴見区について4番目に人口の多い区となっているが、この間の人口の伸びでは各区を抜いて第1位。

また、緑区分として現在までに完成している区画整理事業は26カ所、面積にして1,454ha。そのうち田園都市線沿線が20カ所で、1,346haもある。分区当時49町にすぎなかった緑区も、次々と新しい町が出来て、51年2月末には72町となっている。現在、なお11カ所、1,090haもの区画整理事業が行なわれており、事業の進展に伴って、新しい町は今後も増える見込みである。

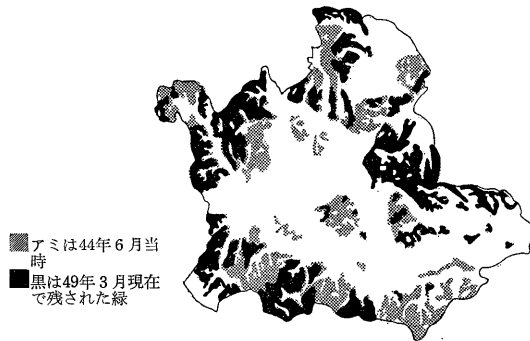
緑区はこのように、急激な地域の変ぼうと人口の流入により、若く、新しい住民で構成された行政区である。しかも、東京へ直結する田園都市線と横浜線を利用する人たちとの生活圏や意識の違い、開発地域における旧住民と新住民との行動様式や地域への関心度の違いなど、それぞれの住民の生活構造を含めて、他区には例を見られない特徴をもった地域となっている。

表一1 多摩田園都市からの市民の声〈42～43年度〉

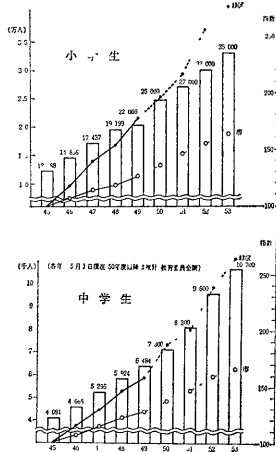
年月日	住民要求	関連局
42年	3.22 健康診断の実施方法について〈恩田町〉	衛生
	6.16 河川の改修について〈北八朔〉	土木
	8.9 道路舗装工事について〈長津田〉	土木
	9.14 ゴミ収集及びし尿くみ取りについて〈藤が丘〉	清掃
43年	11.29 違反建築の取締りについて〈藤が丘〉	建築
	1.17 道路補修について〈恩田町〉	道路
	3.13 長津田保育園の整備について〈同父母の会〉	民生
	4.11 私設消防・学校への寄付依頼について〈奈良町〉	消防・教育
	4.30 郵便局の設置について〈元石川〉	中郵
	5.1 都市化対策について〈田園都市住民〉	企画

5. 1	市営バス網の整備について〈しらとり台〉	交通
5. 10	歩道橋の設置について〈荏田町〉	建設省
5. 27	水道の検針とゴミ収集について〈元石川〉	水道・清掃
6. 3	信号機の設置について〈北八朔〉	県警
6. 26	団地名の表示について〈元石川〉	市民
7. 10	選挙人名簿の整備について〈荏田町〉	選挙
8. 9	山下小学校の校舎建設促進について〈北八朔〉	教育
8. 9	駐在所の増設について〈田園都市住民〉	区
8. 20	恩田川沿岸土地改良事業について〈長津田町〉	農政
9. 3	稲荷前古墳群の保存について〈鉄町〉	教育
9. 11	建築許可について〈荏田町〉	建築
9. 19	ガードレールの拡幅改修について〈恩田町〉	道路
10. 14	谷本中学校の整備について〈市ヶ尾〉	教育・道路
11. 30	道路舗装, 公衆便所, 警察署設置について〈長津田〉	道路・県警他
44年 2. 8	電話局番の市内編成について〈長津田〉	電々公社
3. 10	職員の定数増について〈川和支所固定資産税係〉	総務
3. 10	区の事務処理体制整備について〈中山町〉	区
3. 24	消防出張所の建設について〈長津田〉	消防

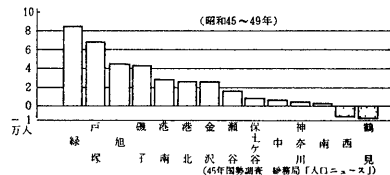
図一 1 減少する緑—航空写真からみた山林分布図



図一 2 激増する小中学生

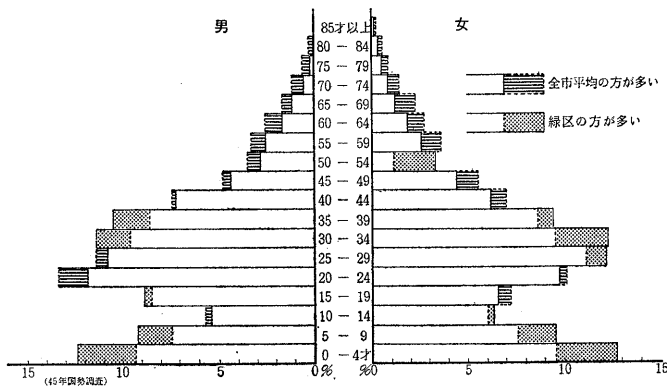


図一 3 45年以降の区別人口増減数

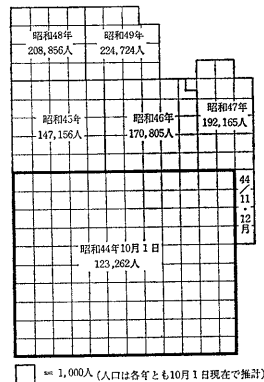


注 陳情, 請願をのそぎ, 個人名で市長宛に要求を出したもの。〈 〉内は地区を示す。

図一 4 若年層主力の年令構成



図一 5 緑区誕生以後の人口増加



2 > A調査回収状況と区民の特性

A調査では、20才以上の緑区民を対象に、層化二段無作為抽出法で、区内全域から調査地区を50地点選び、1地区から15名ずつの計750名を対象者として、調査員による面接アンケート調査を行った。質問項目の柱は、区民の生活実態と日ごらの生活意識を知るために、①定住性と流動性②生活圏と地域生活の実態③生活感・居住感・社会観④自治会・町内会活動への対応⑤区・市政への関心、などを中心とするものであった。調査の実査期間は、50年12月6日から9日までの4日間、調査票の有効回収率は81.3%であった。

調査対象者の個人的な特性から、大まかな緑区民全体の性格をみると、先に述べた区の歴史と同様に、区民の年齢構成も若く、分区後の45年以降に転入してきた新住市民層が6割近くを占め、東京からの流入人口がきわめて多い。また、職業別

表一2 緑区A調査ブロック別回収率

ブロック別	割当標本数	有効回収標本数	回収率
1. 田園都市線沿線地区 〈20地点〉	300	247	82.3%
2. 横浜線沿線地区 〈20地点〉	300	249	83.0%
3. 長津田・奈良北・大場・すすき野地区 〈5地点〉	75	55	73.3%
4. 東方・池辺・川和・北八朔地区 〈5地点〉	75	59	78.7%
緑区全体 〈50地点〉	750	610	81.3%

注 抽出方法は50年9月10日現在の選挙人名簿（有権者数152,659名）を使用した層化二段無作為抽出。その後、居住の有無を住民票で確かめてから調査対象者を決定した。

表一3 未回収標本の内訳

未回収の理由	調査拒否	不在	出張など長期不在	病気・入院	転居	該当者不明	その他	計
標本数	15	60	16	6	27	10	6	140
比率 〈N=750〉	2.0%	8.0%	2.2%	0.8%	3.6%	1.3%	0.8%	18.7%

では大企業に勤めるホワイトカラー層の割合が比較的多かったが、こうした傾向は、横浜線沿線よりも田園都市線沿線の住民の方に強かった。以下、必要と思われる緑区民の特性を列举してみよう。

①年齢構成では、30代〈33.1%〉と20代〈29.8%〉の若い世代が主力で、50才以上の高年齢層が比較的少ない。

②いわゆる新住市民の割合が高く、20才以上の区民の6割近くは、分区後の45年以降に移り住んだ人たちである。これは、全市平均の同比率45%〈50年7月都市研調査〉にくらべてきわめて高く、「戦前から」や「戦後から」住んでいる人はいずれも5%台で、「今年〈50年〉から」住んだ人よりも少ない。

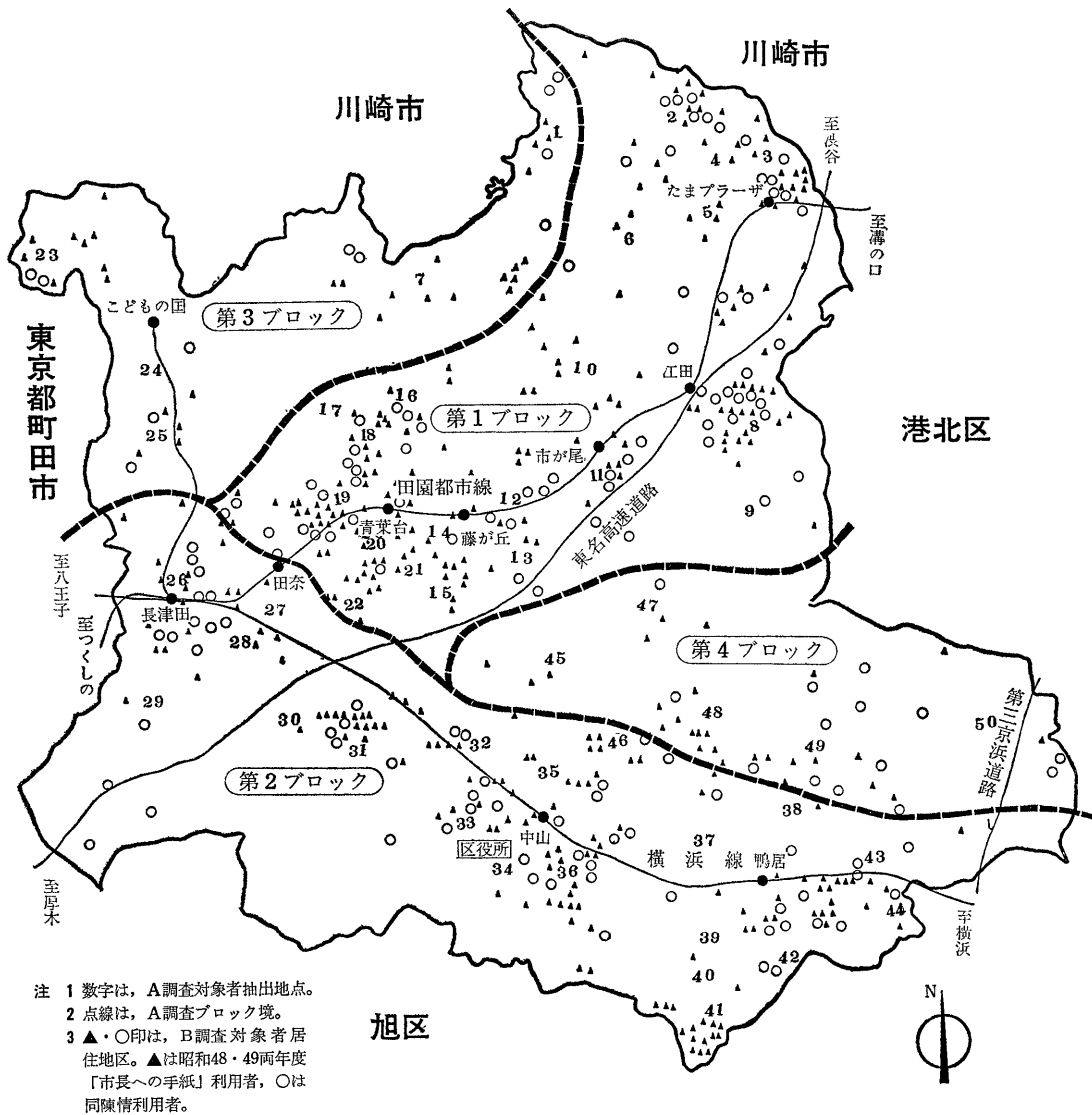
③緑区民のなかで「浜っ子」の割合は、20才以上の人口の22%。横浜を除く東北・関東生まれが全体の4割強で、うち東京都出身者は17.2%。また、生まれた時から現住居に住んでいる「土地っ子」

の割合は、同じく20才以上の人口の8%である。

④前住地では、市・区内移動をしながらの住まいに落ち着いた人が全体の3分の1。緑区へ来る前は「町田市を除く東京都内」に住んでいた人が26.1%。とりわけ、田園都市線沿線住民ではこの割合が4割近くになり、東京からの流入者がきわめて多い（P.13, 図一7）。

⑤職業構成では、全市平均にくらべて、専門技術職・経営管理

図一6 緑区A調査地域区分と要求項目の分布



注 1 数字は、A調査対象者抽出地点。
 2 点線は、A調査ブロック境。
 3 ▲・○印は、B調査対象者居住地区。▲は昭和48・49両年度「市長への手紙」利用者、○は同陳情利用者。

A調査地点別町名一覧

第1ブロック

②③④⑤美しが丘、⑥元石川町、⑧⑨荏田町、⑩⑪市ヶ尾町、⑫⑬藤が丘、⑭草台、⑮梅が丘、⑯桜台・恩田町、⑰⑱青葉台、⑲榎が台、⑳つつじが丘・しらとり台、㉑しらとり台。

第2ブロック

⑳㉑㉒㉓長津田町、⑳㉑十日市場町、㉒三保町、㉓台村町、㉔寺山町、㉕㉖中山町、㉗佐江戸町、㉘池辺町、㉙

㉚鴨居町、㉛㉜竹山、㉝㉞東本郷町、㉟青砥町。

第3ブロック

①すすき野、⑦鉄町・大場町、⑳㉑奈良町、㉒恩田町。

第4ブロック

④⑤北八朔町、⑦⑧川和町、⑨池辺町・川向町、⑩東方町・川向町。

注 ○内の数字は、地点番号。

表一 4 A 調査地点別住民要求一覽

ブロック・地点・要求項目	ブロック・地点・要求項目
<p>第1ブロック</p> <p>② 公立高校設置要求, 流通センター建設反対, 道路建設反対, 違反住宅建築反対。③ 図書館設立要求, イトーヨーカドー建設反対, 駐車場設置要求, ⑤ 速達郵便の配達区域拡大要求, たまプラーザ駅での小荷物取扱い要求, たまプラーザ駅前トイレ設置要求, 道路舗装要求。⑥ 水道設置要求, 学校設立要求, 公私立幼稚園の月謝差額負担要求。⑧ 港北ニュータウン進入道路建設反対。⑨ 港北ニュータウン進入道路建設反対, 農地の宅地並課税反対。⑩ 道路整備要求, 自然を守る要求。⑪ 郵便局設置要求, 交番設置要求, 市ガ尾駅南口出口設置要求, インターチェンジ建設反対, ビル建設反対。⑫ 公立高校増設置要求, 小学校運動場拡張要求。⑬ 道路舗装要求, 東名高速道路の防音壁設置要求, 藤が丘駅前トイレ設置要求, 農地の宅地並課税反対要求, 家賃値上げ反対, 自治会の方針反対。⑭ 道路舗装要求, 街灯設置要求, マンション建設反対, 公園清掃要求。⑮ 道路舗装要求, 下水道整備要求。⑯ 公立高校増設要求, 道路舗装要求, 防犯灯設置要求, たちばな台公園への植栽要求。⑰ 公立高校の新設要求, 幼稚園の新設要求, 通学路の整備要求, 防犯灯設置要求。⑱ 公立高校の増設要求, 保育所の増設要求, 道路整備要求, 道路排水整備要求。⑲ 公立高校増設要求, 道路整備要求, 街灯設置要求, 日照問題運動。⑳ 高校増設要求, 学校給食問題, 水害に対する下水工事反対運動。㉑ 公立高校の増設要求, 公園建設要求。㉒ 道路舗装要求, ごみ収集場所の設置要求, 日照権問題。</p> <p>第2ブロック</p> <p>㉓ 道路舗装要求, 下水のふた設置要求。㉔ 小学校の分校に対する反対運動, アパート建設反対運動。㉕ 道路舗装要求。㉖ 河川改修要求, 岩川の護岸工事要求, 道路整備(通学路, 歩道, U字溝)要求, どぶの蚊や蠅の駆除運動。㉗ ごみ焼却場建設反対運動, 公園整備(植</p>	<p>木の消毒, 砂入れ)要求, ごみ収集回数の増加要求, 保育園前路上駐車と騒音防止要求。㉘ 横浜線の複線化・十日市場駅早期完成促進要求, 下水道設備改善要求, 市営住宅の修理等に関する要求。㉙ 住宅払下げ問題。㉚ 道路整備要求。㉛ 下水道整備要求, 埋立地の砂ぼこりに関する要求。㉜ 道路(歩道)整備要求, 道路舗装要求, 信号設置要求。㉝ 道路整備要求, 子供用運動場の土地確保要求, 消防自動車新規購入のため市・区への財政援助要求。㉞ 道路整備要求。㉟ 鴨居駅拡張工事促進運動, 道路舗装要求, ごみの収集回数の増加要求。㊱ 鴨居駅拡張工事促進運動, 鴨居駅～竹山団地間の歩道設置要求, 公立高校増設・誘致運動, 駐車場建設に対する賛否問題。㊲ 鴨居駅拡張工事促進運動, 鴨居～竹山団地間の歩道設置要求, 公立高校・中学増設要求。㊳ 道路舗装要求, 道路排水設備の完備要求, 保育所設置要求運動, 東京ガス引き込み運動。㊴ ごみ埋立て反対運動, 小学校の早期開校要求。㊵ ごみ埋め立反対運動, 小学校の早期開校要求。㊶ 宅地造成反対運動, 下水道の整備要求。</p> <p>第3ブロック</p> <p>㊷ 団地内駐車場増設運動, 保育所設置要求, 地域開発(交通の便の改善)要求。㊸ 道路(通学路)舗装要求, 公立高校増設要求。㊹ ジャパンラインと成瀬分譲地の問題, 運動場設置要求, 保育園設置要求, バス運行回数の増発と時間延長要求, 予防接種問題, 信号設置要求。㊺ 区画整理反対運動, 公団住宅建設反対運動。㊻ 道路整備要求, 河川の拡幅要求, 学区問題。</p> <p>第4ブロック</p> <p>㊼ 街灯・信号設置要求, 下水道の整備要求, 上水道の修理要求, 道路舗装要求。㊽ 学校問題, 道路の改修要求。㊾ 下水道整備要求, 河川の整備改修要求。㊿ 道路舗装要求, 道路建設要求, 下水道の整備要求。</p>
<p>注 ○内の数字は, 地点番号。</p>	

職・農業従事者の割合がやや高く、勤め先の企業規模では大企業に通う人が半数近くである。この傾向は、やはり田園都市線沿線の方で著しい。逆に、横浜線沿線では小零細企業に勤める人やブルーカラー層、事務・販売サービス被傭者の割合が高くなっている。

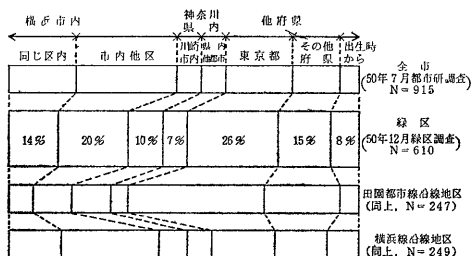
⑥住居形態では、一戸建持家の割合が全市平均よりも約1割ほど少なくなっているが、その分だけマンション・分譲団地形式の持家に傾いている。また、賃貸団地や社宅・寮なども多く、この中高層団地と社宅・寮住まいが多いことは緑区の大きな特徴でもある。逆に、民間アパートや一戸建借家の割合は少な目であった。

⑦なお、対象者の住居地区をみると、一戸建宅造地が30%、中高層団地27.5%、スプロール地区31.3%、住商工混在地6.6%で、地域別にみると、田園都市線沿線では前二者が8割強、横浜線沿線では後二者が6割近くにもなり、両地域ではきわめて対照的な結果となった。

これらの点をふまえて、以下、緑区民の生活実態や地域別にみた区民の生活意識など、調査の目的にあげた問題をさぐってみよう。

資料> 風俗として調査員のみた、50年12月の緑区女性のホームウェアの主流は、スラックスと長さがひざまでの標準型スカート。東京の女性よりも横浜ではスラックスが多く、緑区ではさらに多くなっているが、20代・30代の服装はとりどりで、流行には敏感だ(図-8)。とくに一戸建持家と団地住民で多様化している。

図-7 前住地と「土ッ子」の割合



2——区民の定住性と流動性

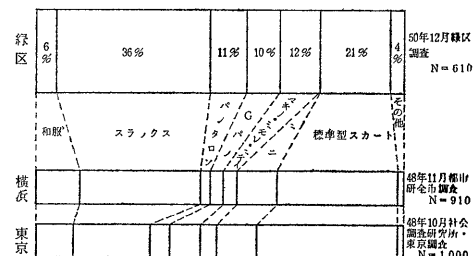
1> 緑区への親しみと定住性

漠然とした質問ではあるが、いま住んでいる処や緑区を、「自分のまち」として親しみを感じている方か、それとも「仮りの住まい」という気持ちの方が強いのか、区民の地域への心理的な結びつきをきいてみた(表-6)。

それによると、緑区全体では5~7割の人々が「親しみをもてる」あるいは「今後もてそうだ」と答え、2割近くが「仮住まい」派。居住年数の長い人ほど「親しみ」派に傾き、「仮住まい」派は、45年以降の比較的短かい人に多い。また、田園都市線沿線ならびに町田や川崎市の柿生寄りの地区では、後者の割合がやや高くなっている。住居形態では、一戸建持家、分譲・賃貸団地の順で「親しみ」派が多く、逆に民間アパート、社宅・公務員住宅では「仮住まい」派が4割を占めて、定住性が低くなっている(表-9)。

具体的な移転計画との関連では、いまの住まいを移ったり、将来よそに家を建てる計画のある人が4割強、「計画なし」が約6割という結果で、全市調査の平均にくらべて、緑区では、まだ区民の流動性も高いといえる(表-7)。なお、「仮住まい」派の7割が移転計画を考え、逆に「親しみ」派の7割近くが「計画なし」と答えている(表-10)。住居形態では、一戸建持家層の8割強が定住派。逆に借家層の6割、社宅・公務員住宅と民間アパート層の7割強が移転希望をもち、

図-8 緑区女性のホームウェア



0%

8%

今後とも流動性は高い（表—11）。

表—6 あなたは、いま住んでおられる処や緑区を、「自分のまち」として親しみを感じている方ですか。あるいは、今後、そうした気持ちをもてそうですか。それとも、「仮りの住まい」というお気持ちの方が強いですか。

	田園都市線沿線	横浜線沿線	第3ブロック	第4ブロック	緑区全体
1 親しみをもっている	51.4%	50.2%	52.7%	54.2%	51.3%
2 今後もてそうだ	17.8	20.1	12.7	22.0	18.7
3 「仮りの住まい」	24.3	14.1	25.5	6.8	18.5
4 なんともいえない	6.5	15.3	9.1	17.0	11.3
5 答えない	0	0.4	0	0	0.2
計	247 (100.0%)	249 (100.0%)	55 (100.0%)	59 (100.0%)	610 (100.0%)

表—7 お宅では、いまのお住まいを移られたり、将来、よそに家を建てる計画がありますか。

	緑区A調査結果	全市調査結果（50年7月）
1 計画あり、具体的に準備中	21.4%	9.7%
2 計画あるが、準備はしていない	20.4%	13.8%
3 計画はない	56.1%	66.7%
4 DK・NA	2.1%	9.8%
	小計 41.8%	小計 23.5%
計	610 (100.0%)	915 (100.0%)

表—8 居住年数別にみた定住性

表—9 住居形態別にみた定住性

居住年数	親しみをもっている	「仮りの住まい」
昭和50年から	44.6%	28.6%
45年以降	36.3	27.4
40年以降	57.9	8.3
35年以降	76.0	—
30年以降	81.0	9.5
戦後から	82.3	5.9
戦前から	93.8	3.1
全体	51.3%	18.5%

住居形態	親しみをもっている	今後もて そうだ	「仮りの 住まい」	なんとも いえない	答えない	計
持家（一戸建）	64.3%	18.8%	5.6%	11.3%	—%	266 100.0%
持家（マンション・分譲団地）	50.0	26.8	11.0	11.0	1.2	82 100.0%
借家（一戸建）	45.5	13.6	27.3	13.6	—	44 100.0%
借家（賃貸マンション団地）	48.7	10.5	26.3	14.5	—	76 100.0%
社務員住宅	32.0	20.0	40.0	8.0	—	50 100.0%
民間アパート	35.7	16.1	41.1	7.1	—	56 100.0%
全体	51.3	18.7	18.5	11.3	0.2	610 100.0%

表—10 定住意識と移転計画

	計画あり準備中	計画あるが準備なし	計画はない	DK・NA	計
親しみをもっている	18.7%	11.3%	67.7%	2.3%	310 100.0%
「仮りの住まい」	35.7	35.7	27.7	0.9	112 100.0%
全体	21.1	20.3	56.4	2.2	610 100.0%

2 > 横浜への指向性と生活圏

では、区民の横浜都心部（横浜駅西口や伊勢佐木町・港など）への指向性や、生計維持者の勤め先所在地、また買物や飲食、けいこ事やスポーツ・観劇など、仕事以外に余暇を過ごす場所、つまり生活圏のひろがりはどうか。

まず、緑区民が横浜駅西口や伊勢佐木町・港方面へ出向く回数は、「月に1～2回」・「年に1～2回」という人が、それぞれ3割前後で上位を占め、これに「半年に1～2回」程度が続く。しかし、一方では緑区へ住んでから「まだ行ったことがない」という人も17%いる。大まかな傾向として、横浜線沿線の住民の半数以上は「月に1～2回」横浜都心部へ出向いているが、田園都市線沿線の住民では、交通の便からみて東京に出る方が近いということもあって、この割合が低く、逆に「半年」または「年に1～2回」という人が過半

数になる。しかも、東急多摩田園都市住民の4人に1人は「まだ行ったことがない」という回答で、横浜都心部への結びつきは弱く、あらためて注目された（表—12）。

また、生計維持者の勤め先の所在地をみると、緑区全体では自宅・区内・市内をあわせた「横浜」に職場をもつ人と「東京都内」への通勤者とがほぼ同率の4割ずつで、これに「川崎市内」の12%が続いている。横浜線沿線の住民の半数以上は「横浜」に職場があるが、田園都市線沿線住民ではこの割合が低く、「東京都内」が6割強を占めている（表—13）。後者では、横浜線沿線の住民にくらべて、ショッピング・デパート歩きや外での飲食など、仕事以外に余暇を過ごす場所も「東京都内」が多く、そうした日頃の生活行動からみても、「準東京都民」としての生活構造が、きわめて鮮明に浮きぼりにされた（表—14, 15, 16）

表—11 住居形態別にみた移転計画

	計画あり 準備中	計画あるが 準備なし	計画はない	DK・NA	計
持家 (一戸建)	6.4%	8.7%	81.9%	3.0%	265 100.0%
持家 (マンション・分譲団地)	22.2	28.4	46.9	2.5	81 100.0%
借家 (一戸建)	34.1	27.3	38.6	—	44 100.0%
借家 (賃貸マンション・同地)	33.8	27.0	37.8	1.4	74 100.0%
社宅・公務員住宅	48.0	26.0	26.0	—	50 100.0%
民間アパート	37.5	35.7	25.0	1.8	56 100.0%
全 体	21.1	20.3	56.4	2.2	610 100.0%

表—12 ところで、あなたは、こちらに移られてから、仕事以外のことで、横浜駅西口や伊勢佐木町・港方面へ、でかけることがありますか。あるとすれば、月平均何回くらいですか。

	田園都市線沿線 n=247	横浜線沿線 n=249	第3ブロック n=55	第4ブロック n=59	緑区全体 n=610
1 ほとんど毎日	0.4%	0.8%	3.6%	1.7%	1.0%
2 週に1～2回	0.8	11.7	—	10.2	6.1
3 月に1～2回	20.7	40.2	21.8	49.2	31.5
4 半年に1～2回	17.4	18.1	18.2	15.3	17.5
5 年に1～2回	34.0	20.9	38.2	17.0	27.4
6 まだ行ったことがない	26.7	8.4	18.2	6.8	16.6
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表一13 生計維持者の勤め先所在地 (お宅で、おもに家計を支えている方のお勤め先の所在地は、どこですか)

	田園都市線沿線 n=247	横浜線沿線 n=249	第3ブロック n=55	第4ブロック n=59	緑区全体 n=610
1 自宅	7.7%	8.0%	5.5%	13.6%	8.2%
2 緑区内	6.9	19.3	18.2	23.7	14.6
3 横浜市内	9.7	23.3	10.9	23.7	16.7
4 川崎市内	7.3	15.7	10.9	20.3	12.3
5 町田・大和・座間・厚木・相模原方面	2.4	4.0	10.9	5.1	4.1
6 (1~5を除く)神奈川県内	0.8	1.2	3.6	—	1.2
7 東京都内	63.2	23.7	36.4	13.7	39.8
8 その他	0.4	1.6	—	—	0.8
9 勤めていない	1.6	3.2	3.6	—	2.3

表一14 あなたは、11月17日(月曜)から12月6日(土曜)の20日間に、仕事以外に、次のようなことをしたことがありますか。(MA)(その場所は、おもにどこでしたか。それぞれあげてみてください。)

行為	場所 行率 610 (100%)	自分の家、または家から歩いて行ける範囲	バス・電車を利用した緑区	横浜駅西口や伊勢佐木町など横浜市内	溝ノ口や武蔵小杉など川崎市	その他の神奈川県内	原町田など町田市
親しい人を訪問した	259 (42.5%)	28.9%	10.4%	15.1%	7.7%	4.6%	1.9%
ショッピング・デパート歩きや外での食事	391 (64.1)	14.3	13.6	22.5	7.4	1.3	8.7
けいこ事やスポーツ・趣味の会に行った	137 (22.5)	29.2	10.2	13.1	6.7	9.5	2.2
パチンコ、麻雀、飲み屋、バーに行った	179 (29.3)	22.3	10.6	10.1	8.4	3.9	1.1
映画、演劇、音楽会、図書館に行った	57 (9.3)	5.3	5.3	28.1	10.5	—	3.5
地域的な活動や、宗教・政治団体の活動に参加	47 (7.7)	70.2	12.8	6.4	2.1	2.1	—
全 体	1,070 (175.4%)	23.1	11.4	17.0	7.5	3.6	4.3

表一15 ショッピング・デパート歩きや外での食事

田園都市線沿線	16.2%	9.5%	6.1%	11.2%	1.7%	2.8%
横浜線沿線	12.5	14.6	38.9	3.4	1.4	14.6

表一16 パチンコ、麻雀、飲み屋、バーへ行った

田園都市線沿線	10.4%	10.4%	2.6%	9.1%	3.9%	1.3%
横浜線沿線	38.9	9.7	13.9	8.3	5.5	1.4

3——生活感と社会観——区民の階層性にふれて

1> 生活感と暮らし向き

区民は、いまの毎日の生活に満足している方かどうか。国鉄・私鉄が長期間ストップした公労協の「スト権スト」明け直後に行なわれた今回の調査では、その影響が心配されたが、それにもかかわらず「満足」「まあ満足」をあわせた満足派は69.2%、「不満」「やや不満」をあわせた不満派は23.1%で、満足派が不満派をかなり上回っている。これを50年7月に行なった全市調査の同じ質問項目の回答結果とくらべてみると、緑区では、強い満足感を感じている人がきわめて多く、不満

東急沿線 京都市内	東、その 他の東京 都内	そ の 他	計
8.9%	16.2%	6.2%	100.0%
16.6	15.3	0.5	100.0%
3.6	16.8	8.0	100.0%
11.2	31.3	1.1	100.0%
10.5	33.3	3.5	100.0%
—	2.1	4.3	100.0%
11.1	18.8	3.3	100.0%

30.7%	21.8%	—%	179 100.0%
5.6	7.6	1.4	144 100.0%

14.3%	46.7%	1.3%	77 100.0%
4.2	16.7	1.4	72 100.0%

派が少ない。これは、緑区の一つの特徴ではなからうか(表—17)。

表—17 ところで、あなたは、いまの毎日の生活に、満足している方ですか。それとも不満がある方ですか。

	緑区A調 査結果	田園都市 線沿線	横浜線沿 線	全市調査結 果 (50年7月)
1 満足している方	25.1%	29.6%	19.3%	12.3%
2 まあ満足している方	44.1	42.9	46.2	44.2
3 どちらともいえない	11.6	10.5	10.8	17.4
4 やや不満がある方	11.5	11.3	12.9	17.6
5 不満がある方	7.4	5.3	10.4	7.1
6 DK・NA	0.3	0.4	0.4	1.4
計	610 (100.0%)	247 (100.0%)	249 (100.0%)	915 (100.0%)

地域別では、田園都市線沿線の住民の方が横浜線沿線の住民よりも強い満足派が多く、不満派が少なくなっている。また、後述する居住感との関係では、現住地を「住みよい」と感じている人は、「住みにくい」と答えた人に比べて、満足派がきわめて多く、不満派が少ない。逆に、「住みにくい」という人では、強い不満派が多く、「どちらともいえない」と、回答に困る人も増えている。全市調査の結果からみても、この居住感と生活の満足感とは、かなり強い関連性をもっていそうだ(表—18)。

表—18 居住感と生活の満足感

居住感	満足	まあ満足	どちらともいえない	やや不満	不満	DK NA	計
住みやすい	29.4%	45.2%	8.6%	10.5%	6.1%	0.2%	456 100.0%
住みにくい	9.1%	39.4%	22.7%	13.6%	15.2%	—	66 100.0%

つぎに、この1年間(昭和50年)の暮らし向きを答えてもらうと、緑区全体では約半数が「収支トントン」、「余裕」派と「赤字」組がそれぞれ2割前後であった。地域別では、田園都市線沿線の住

民に「余裕」派が多く、その割合は3割にもなった。逆に「赤字」は、港北区に接する農業地域の多い第4ブロックで多かった。なお、とも働きや単身世帯では比較的「余裕」派が多く、「赤字」世帯は少ない。逆に、主婦がパートや内職をしている世帯では4分の1が「赤字」で、その暮らし向きはいちばん厳しい。また、おもな生計維持者が1人という世帯でも「赤字」が2割を越えていた(表-20)。

先の生活の満足感との関連ではどうか(表-21)。「余裕がある」世帯の満足派は76.3%、不満派が14.8%で、「赤字」世帯の同比率59.8%、28.2%にくらべると、はるかに「余裕」派の満足感が強く、不満感は少ない。「収支トントン」組では、ほぼ両者の中間の割合で納まり、暮らし向きにゆとりがあれば日々の生活の満足感も高まるという傾向が認められる。これは当然の結果であるかも知れないが、もう少し詳しくその中味をさぐってみよう。

まず、勤め先の企業規模と暮らし向きとの関連をみると、官公庁は別にして、企業規模が大きくなるほど「余裕」派が増え、300人以上の企業に勤める人では、その割合が26%と全体の平均を上回る。逆に、「赤字」世帯は19人以下が28.8%で、いちばん多い。その中間の20~299人までの企業に勤める人では「収支トントン」が7割近くを占め、「余裕」派が2割で「赤字」は少なくなって

表-19 ところで、卒直なところ、お宅のこの1年の家計はボーナスも含めて考えると、余裕がありましたか。それとも、収入と支出が同じぐらいでしたか。または、赤字になりそうですか。

	緑区A調査結果	田園都市線沿線	横浜線沿線	第3ブロック	第4ブロック
1 余裕がある	22.1%	29.6%	18.5%	14.5%	13.6%
2 収支トントン	55.4	50.6	57.4	65.5	57.6
3 赤字	19.2	18.6	17.7	20.0	27.1
4 その他の答	1.8	0.4	3.6	—	1.7
5 答えない	1.5	0.8	2.8	—	—
計	610 (100.0%)	247 (100.0%)	249 (100.0%)	55 (100.0%)	59 (100.0%)

表-20 世帯の働き手と暮らし向き

	余裕がある	収支トントン	赤字	その他の答	N A	計
単身者	23.1%	63.5%	9.6%	3.8%	—	52(8.5%) 100.0%
とも働き	29.4	54.2	12.8	1.8	1.8	109(17.8%) 100.0%
パートや内職など	10.9	56.4	25.5	5.4	1.8	55(9.0%) 100.0%
いずれでもない	21.6	54.6	21.3	1.0	1.5	394(64.6%) 100.0%
全体	22.1	55.4	19.2	1.8	1.5	610(100.0%) 100.0%

表-21 暮らし向きと生活の満足感

	満足	まあ満足	どちらともいえない	やや不満	不満	D N	K A	計
余裕がある	31.9%	44.4%	8.9%	9.6%	5.2%	—	—	135 100.0%
収支トントン	24.0	45.3	13.0	11.2	6.2	0.3	—	338 100.0%
赤字	17.9	41.9	11.1	14.5	13.7	0.9	—	117 100.0%

表-22 勤め先の企業規模別にみた暮らし向き

勤め先の企業規模	余裕がある	収支トントン	赤字	その他の答	N A	計
19人以下	17.5%	50.0%	28.8%	2.5%	1.3%	80 100.0%
20~299人	21.6	67.6	9.5	1.3	—	74 100.0%
300人以上	26.4	58.1	13.2	0.6	1.7	174 100.0%
官公庁	12.5	65.6	21.9	—	—	32 100.0%
全体	22.2	58.9	16.7	1.1	1.1	360 100.0%